

宮下夫妻が古文書を手がかりに 『書き残された和合史』を刊行

古い歴史を持った家に生まれ、その家を継承していく思いは、核家族が大半を占めるようになった現代人にはなかなか想像しにくい。和合村名主を代々勤め、「熊谷家伝記」をはじめ四五〇〇点にも及ぶ古文書を伝える宮下家二十八代当主金善さん、澄子さん夫妻にとつて「家」はどんな意味をもつのだろうか――。

定年退職を迎えるのを機に、住居を高森町から阿南町和合の生家に移すに当たって、書き残された古文書を整理しながら「目についたおもしろそうな古文書を選んで気楽に」書いた古文書周辺の話題を夫妻で弊紙に不定期連載している。

このほど、連載中のものに未掲載のもの5編を加えた23編を、年代順にまとめ『書き残された和合史』（南信州新聞社刊）を出版した。古文書を手がかりに、先祖の生きてきた道筋をたどる夫妻の旅はまだまだ続きそうだが、地域資料から日本史を見直す試みでもあり、通して読むと新鮮なものがあった。

本書はA5判並製本140頁。南信濃在住の北島新平さんが挿絵、東京外国語大学大学院教授の吉田ゆり子さんが解説を寄せている。定価1260円。お求めは書店または南信州新聞社まで。（嶋）



出版した本と宮下金善さん